

# 日本仏教社会福祉学会 ニュースレター

No.20

■平成26年2月18日

■発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

## CONTENTS

- ・平成25年度 日本仏教社会福祉学会第48回大会報告
- ・平成25年度 日本仏教社会福祉学会第2回理事・役員会報告
- ・第5回学会賞 募集要項
- ・平成26年度 アジア仏教社会福祉学術交流基金 募集要項
- ・日本仏教社会福祉学会第49回大会について
- ・理事選出選挙の結果及び次期理事・役員体制報告
- ・会員の皆様へお知らせ
- ・事務局 編集後記

日本仏教社会福祉学会

発行日：平成26年2月18日

発行：日本仏教社会福祉学会事務局

〒170-8470

東京都豊島区西巣鴨3-20-1 大正大学社会福祉学科事務室内

TEL：03-3918-7311（代）

FAX：03-5394-3057

E-Mail：ohdai-sw@tais-shafuku.sakura.ne.jp

## 平成25年度 日本仏教社会福祉学会 第48回大会報告

平成25年8月31日・9月1日に大正大学・巣鴨校舎において第48回大会が開催されました。大会テーマは『災害支援と仏教社会福祉の課題』とし、一般にも公開された基調講演及びシンポジウム、研究発表が行われました。

### 【大会内容】

第1日目

物故者法要

基調講演

「災害支援と仏教社会福祉の課題」

多田孝文氏（大正大学名誉教授、  
一般社団法人南三陸研修センター代表理事）

シンポジウム

「災害支援と仏教社会福祉の課題  
～東日本大震災の検証から～」

シンポジスト

奈良慈徹氏（全日本仏教会総務部部长）

自覚大道氏（仏教NGOネットワーク企画委員）

藤森雄介氏（淑徳大学国際コミュニケーション学部准教授）

コーディネーター

清水海隆氏（立正大学社会福祉学部教授）

総会

懇親会



第2日目

自由研究発表 9時30分～11時35分

第1分科会

浄土宗義の現代化をめぐる『浄土教報』誌上における宗義と国体の融合に関する議論

吉水岳彦氏 (浄土宗総合研究所)

隠岐共生学園の社会事業

田中美喜子氏 (長崎純心大学)

大阪四恩報答会にみる僧侶と実業家の協働関係に学ぶこと

小笠原慶彰氏 (京都光華女子大学)

金剛頂経に見る福祉思想

山口幸照氏 (高野山大学)

仏教社会福祉の平等観についての多元的考察—憲法の平等観や哲学の平等論との比較も踏まえて—

瀬尾俊治氏 (日本総合科学社会理論研究所)

第2分科会

ベトナムのソーシャルワークにおける仏教の役割—日本・ベトナムの比較研究—

佐藤成道氏 (淑徳大学大学院)

消防職員・消防団員のメンタルヘルス面を地域で支えるための基礎研究 第一報

栗田修司氏 (龍谷大学)

高齢者を中心にした「交流の場」づくりの実践報告～映画上映を素材として～

大塚明子氏 (浅草寺福祉会館)

有料老人ホームという「自宅」で穏やかに他界された0氏について

佐伯典彦氏 (社会福祉法人青山福祉会)

「自己覚知」を考える—法然の凡夫観を通じて—

郡嶋昭示 (浄土宗総合研究所)

平成25年度日本仏教社会福祉学会  
総会報告

第48回大会初日16時より16時45分まで、平成25年度の総会が行われました。三友量順理事が議長に選出され、平成24年度決算及び事業報告、平成26年度予算及び事業計画、報告事項として会員の異動や編集規定の変更などが審議され、全案可決されました。

平成25年度日本仏教社会福祉学会  
第2回理事・役員会報告

日時：平成25年8月30日 15時より17時  
場所：大正大学・巢鴨校舎

出席

代表理事 石川到覚

個人理事 長谷川匡俊 清水海隆 村井龍治  
佐賀枝夏文 山口幸照 田代俊孝 菊池正治  
宮城洋一郎

団体理事 藤森雄介 三友量順 小島恵昭  
多田孝文 (代理 落合崇志)

新個人理事 小笠原慶彰

新団体理事 渋谷 哲

監事 梅原基雄 池上要靖

オブザーバー 中垣昌美 (名誉会員)

「仏教社会福祉入門編」編集委員会

清水教恵

東日本大震災対応プロジェクト担当

藤森雄介

事務局 鷺見宗信 菊池結 関根沙織

欠席

個人理事 田宮仁

団体理事 長上深雪 徳岡博巳 林俊光

新個人理事 谷山洋三

1. 開会

本学会の規定により理事会成立が確認され、石川代表理事を議長に議案の審議に入った。

議長・代表理事あいさつ

本年度第2回理事会の開催にあたりご臨席に感謝いたします。今夏は猛暑が続き台風も来ており、昨年の龍谷大学における京都大会の悪夢が蘇ります。慣例に従いまして代表理事の3年間のなか、第48回大会をお引き受けしました。準備の足りない点もございますが、よろしく願いいたします。明日の大会は、グットデザイン賞を授与された3号館をメイン会場とし、5号館のプリンスホテルプロデュースの鴨台食堂で懇親会を行います。また、さざえ堂形式の鴨台観音堂もできましたので、お時間がありましたらお参りいただきたいと思います。では、議案の審議に入りたいと思います。

2. 議案審議

第1号議案：会員の異動について

・事務局より

新入会員4名、退会の個人会員9名及び1団体の報告があり、会費未納会員の退会について審

査されたい。

1) 入退会会員の承認について (順不同・敬称略)

①入会会員承認名 1. 月間秀樹 2. 檜木博之 3. 井上長樹 4. 高橋一弘

②退会会員承認名 1. 高藤昭 2. 大橋聡宗 3. 打本未来 4. 高石史人 5. 岡本和幸 6. 大沢亮湛 7. 佼成カウンセリング研究所(団体会員)

2) 会費未納会員の退会について (順不同・敬称略)

1. 勝野隆広 2. 坂本毅啓 3. 杉本一義 4. 硯川眞旬 5. 硯川初代 6. 硯川裕子 7. 松村孝範 8. 山下憲昭 9. 糸久敦夫 10. 横井大覚、退会合計16人、1団体。

よって、個人会員は206名 (218+4-16)、団体会員24団体、総計230名となる。

・長谷川理事より  
会員数の少ない学会であり、退会の理由について事務局は確認を行っているのか。

・事務局より  
理事局への退会連絡は、振込用紙の記入、正式な文書、はがきの3種類の方がいる。本来は正式文書を受理すべきだが、理事会で方法を決めてほしい。

・藤森理事より  
水谷先生は名誉会員であり、退会とは別の対応をすべきではないか。

・事務局より  
会長名で引き続き名誉会員は終身会員である旨の手紙を送る。

・中垣名誉会員より  
四天王寺大学が退会するのはなぜか。本会をもっと周知すべきである。

・事務局より  
四天王寺大学学長名で正式な退会届が提出されている。また、入会勧奨に取組みたい。

・以上の審査と審議の結果、入会・退会申請は全員承認された。また、会費未納会員については、各理事より再度入金を依頼できる会員へ働きかけることとなり、上記の会費未納会員の退会手続きは承認された。

第2号議案：理事選出選挙の結果について

・藤森選挙管理委員長より  
理事選出選挙では、投票用紙を2回送付したが、選挙自体は多数の先生方が投票され、大正大学で無事開票できた。その結果は、配布資料の通りである。

・事務局より  
次期理事・役員体制は、慣例により事務局

が整理した案として既に文書にてお送りした。選挙上位並びに継続推薦を勧奨し、個人理事及び団体理事の候補一覧のように、今期理事の継続となっている。

・清水理事より

立正大学が団体会員を引き受けるが、団体理事は三友先生にお願いしたい。

・議長より

三友先生に立正大学の理事をお願いし、監事の候補が1人欠員だが、継続的運営を考慮して梅原先生に再任をお願いしたい。

・全員承認

・議長より

次期理事・役員役割分担については、明日の臨時理事会でお決め願いたい。

・長谷川理事より

本理事会で代表理事を決め、次のステップとして役割を決めたら良いのではないか。

・議長より

代表理事の選出は、慣例では選挙得票数で決めることになっており、長谷川先生にお願いしたい。

・長谷川理事より

代表理事の他薦、2期再選という慣例もあった。できる限り多くの大学関係者が引き受けるのが理想でも選挙の結果も重くみなければいけない。私の考え方としては、大学の事情、石川先生の事情が許すのであれば、もう一度代表理事を引き受けていただけないか。

・議長より

個人的な事情を申し上げれば来年度に大正大学を退任するので、現職の所属及び得票数を考えてもトップの得票率を覆すのは難しいのではないか。

・長谷川理事より

私も個人的なことを申し上げれば、今年の3月で淑徳大学の教員と学長を退職し、今は、理事長となっている。大学に所属せずとも現職の職員でなくても、事務局の受け皿が代表理事に関係する学校に事務局が置かれて繋がりがあれば構わないと思う。

・議長より

事務局と頻繁に応答できなければ小さな学会は難しい。在籍しない後の対応ができるか否かは不明である。団体会員とはいわゆる法人の代表者であり、そのように考えても本学会は団体会員に重きをおいてきた。中垣先生のご意見はいかがか。

・中垣名誉会員より

ひとそれぞれの理由があるが、いかにこの学会を愛し、発展させるのか。今回の選挙結

果は妥当だと思う。長谷川先生も理事長として少しは楽になったのではないか。50周年大会を迎え、長谷川先生が代表理事を引き受けるのは妥当ではないか。清水海隆先生も将来の代表理事ではないか。次期は長谷川先生にお引き受けいただきき発展を願いたい。

・長谷川理事より

理事会の審議と決定にお任せする。

審議の結果、長谷川会員が次期代表理事に決定した。

第3号議案：次期理事・役員体制（案）について

・議長より

翌31日の臨時理事会で審議いただきたい。

審議の上、改めて31日の臨時理事会で審議することが決定した。

第4号議案：平成26年度事業計画（案）及び平成26年度予算（案）について

・事務局より

次期事業計画（案）及び予算（案）について報告。

・藤森理事より

震災プロジェクト予算では、事業計画に掲載され、25年度が3年計画の最終年であるので審議を願いたい。

・議長より

事務局報告を補足すれば、平成26年度は新理事役員体制で審議するものであり、予算案も今年度を参考にして作成しており、次年度予算案は新体制で審議を願いたい。よって本議案の審議は、翌31日の臨時理事会で改めて審議することが決まった。

第5号議案：平成25年度総会について

・事務局より

総会資料について説明。

・議長より

総会議長は、慣例として理事のどなたかにお願いたい。

審議の上、総会資料の内の平成26年度事業計画（案）及び予算（案）については、翌31日の臨時理事役員会での審議の中で改めて確認されることが決まった。また、その他の総会議案の上程が承認された。なお、総会議長は三友理事が担うこととなった。

### 3. 報告事項

1) 担当理事の報告について

①学会50周年記念事業について

・清水理事及び村井理事より

論文集の刊行、聞き取り（中垣先生・長谷川先生・他）、文献目録（中身の精査）について作業を行っている。50周年記念事業をいつ行うのかを最終確認したい。第49回大会は同朋大学、第50回淑徳大学、第51回立正大学。50回の大会でやるのか、51回の大会でやるのか、理事会で決めてほしい。

・長谷川理事より

それと関連して50回の大会を淑徳大学での開催は、前回の理事会で承認いただいたが、淑徳大学は再来年50周年を迎える。これからの事業の進め方を考えると、51回のときに記念事業を行いたい。

・議長より

51回大会で50周年記念事業を行う。今年度中にプロジェクトを立ち上げ、新代表理事のもとで強化して始めたらどうか。

審議の上、50周年事業についてはプロジェクトメンバーを増員することが承認された。

②震災対応プロジェクトについて

・藤森理事より

アンケート調査のデータ集計から読み取れるものを発表できるよう検討している。日本社会福祉系学会連合の東日本大震災シンポジウムでは、日本仏教社会福祉学会として発表する。調査研究は、分析結果を公表したいので、その経費は仏教伝道協会の助成にエントリーすることを前回の理事会で承認いただいた。助成へのエントリーの承諾は得ているが、全額助成ではなく一部助成である。見積書（廣濟堂）では300万円程度掛かり、現実的な見積でも100万円は要するだろう。伝道協会から全額は出してもらえず、その経費をはっきりさせないと伝道協会の助成申請は通らない。この震災対応の残りの費用は、約20万円で経費が足りない。伝道協会の助成では冊子の販売ができない。作成費用を捻出する知恵をお借りできないか。

・議長より

震災対応プロジェクトの成果を出版したいとの意向であるが、資金を捻出できるか否か、補正予算を組んで総会にかけられるか、または会員から寄付を募るかどちらかになるのか。刊行目的と合わせて配布対象は誰になるのか。

・藤森理事より

本学会員、全日仏加盟団体、支援した団体、被災寺院等600から700部、それに関連団体を加えて900から1000部となる。

・議長より

今回のアンケート調査結果はいくつかの団体が共有するものであり、研究倫理からすれば各団体が権利をもつ。費用の割り振りも各団体がどう受けるかを考える必要がある。

・長谷川理事より

仏教社会福祉学会としてこの震災から学び問題提起できるのか、ある程度の理論化していくかによって報告書のイメージも変わってくる。

・藤森理事より

現段階では、生データに近いものを出すことになる。読み込むと学ぶことも多いが、記録として区切りをもって刊行する。刊行したものを活用してもらい、そこでの課題を生かし、本学会でも次のアクションを考えていくための準備もしている。

・議長より

いわゆる調査の生データは、データとして保存することは重要である。それを学会としてどう発信していくかで変わっていく。生データを学会でどう保存・活用していくのか、理事の先生のご意見をお聞きしたい。

・長谷川理事より

いまずぐ何かをまとめるとなると、学会ということ考えると、慎重にしたほうがよい。しかし学会が100万円出した事業でもあるから、今どういう段階迄まとめられているかを発信して、会員がそのデータを活用できるようにし、報告書としては少し時間をかけてデータ分析を行い、報告書を作成した方がよい。

・藤森理事より

今回は出版助成を受けずに、調査のまとめを進めることでよいか。

・議長より

データをまとめ、分析していくことは学会の仕事であると思う。まとめが出来た上で改めて出版等について検討したらどうか。

・山口理事より

このアンケートでは、宗派がいくら寺院にお金を出したのか、出すべきなのかの指針になるようなことを分析していただければありがたい。

③学会年報編集委員会

・佐賀枝理事より

第44号は、藤森先生の報告を含めて編集中である。書評については次号からとする。第45号については本大会後、編集委員の藤森先生、小笠原先生、分科会司会の先生とで編集委員会を開催する。次期編集委員長は小笠原先生に引き継ぎたい。第45号編集は、佐賀枝と次

期編集委員長の小笠原先生とで一緒に進めていきたい。

④『仏教社会福祉 入門編』について

・清水教恵先生より

初稿の校正はほぼ終了した。来年3月の出版を目指して作業を進めていく。

2)事務局の報告について

①学会賞、アジア仏教社会福祉学術交流基金研究・公開助成事業募集について

・事務局より

学会賞については、平成24年1月1日～平成26年12月31日までの研究業績が対象となるので、該当する会員がいましたらご推薦いただきたい。

アジア仏教社会福祉学術交流基金 研究・公開助成事業は、平成25年度4月1日から平成26年3月31日の期間における現地への調査研究が対象となる。該当する方がいればご推薦いただきたい。

②日本学術会議科学者委員会について（法人格の取得）

・事務局より

日本学術会議科学者委員会アンケート調査結果が送られてきた。その調査結果に社団法人等の法人格を取ることが進められた。その際、公益社団法人は学会には不適であろうが、次期の新体制で一般社団法人を取得するかどうかの審議をしてもらいたい。

③年次総会及び学術大会の開催校について

・事務局より

49回大会は同朋大学、50回大会は淑徳大学、51回大会は立正大学で開催する。

④日本社会福祉系学会連合 東日本大震災シンポジウムについて

・事務局より

震災対応プロジェクト委員長の藤森理事が参加する。

⑤その他

・事務局より

48回大会の要旨集の訂正について報告を行い、明日の臨時理事会の場所は774教室で11時45分から開催する。

・清水理事より

非会員からの問い合わせがあったが、大会プログラムをHPに掲載してもらいたい。

・事務局より  
HPに既に掲載しているが、読み辛いかもしれない。  
議長がすべての議案の審議の終了を確認して理事会を閉会した。

(文責：事務局)



平成25年度日本仏教社会福祉学会  
臨時理事・役員会報告

日時：平成25年8月31日 11時40分より12時40分  
場所：大正大学・巣鴨校舎

出席

現代表理事 石川到覚  
新代表理事 長谷川匡俊  
新個人理事 清水海隆 村井龍治 田代俊孝  
菊池正治 宮城洋一郎 池上要靖 田宮仁  
藤森雄介 小笠原慶彰  
新団体理事 三友量順 小島恵昭 多田孝文  
(代理 落合崇志) 渋谷哲  
新監事 梅原基雄 山口幸照

オブザーバー

「仏教社会福祉入門編」編集委員会  
清水教恵  
東日本大震災対応プロジェクト担当  
藤森雄介 (個人理事)  
事務局 鷲見宗信

欠席

新団体理事 長上深雪 徳岡博巳 林俊光  
新個人理事 谷山洋三

・事務局より  
これより平成25年度臨時理事・役員会を開催いたします。慣例により長谷川次期代表理

事を議長に議事を進めて参ります。

・長谷川議長

昨晩学会運営に関して考えました。まず研究活動の活性化を可視化できないかという点が1点、次に50周年記念事業を行うこと。現在計画されている50周年事業を一つ一つ行っていくことが学会の発展のためには重要であると考えます。そして3つめが昨日の理事会でも会員数の減少が指摘されていましたが、会員数の増大のために理事の先生方は関係する方に入会の勧めをしてもらいたいと思います。事務局としては、特に団体会員数の増大を目指したい。以上3点をこの3年間の理事会体制でできるだけ進めたいと思います。理事の先生方には総ての先生に何処かの事業の責任ある立場に就いていただいて、そして他の会員方々で構成される委員会で事業が回っていくような動きをしていただきたい。皆様にご協力をお願いしたい。その上で今後のことについてご意見を頂きたい。

・石川代表理事

研究活動の可視化、活性化につきまして、キリスト教社会福学会50周年を迎えるに当たりキリスト教と仏教との会合を企画していきませんかとの問い合わせを受けたことがある。キリスト教社会福祉学会だけでなく社会事業史学会など関連あるところと組合せながら進めていくことはできないか。可視化については東日本プロジェクト事業について可視化できるのではないかと思います。

・長谷川議長

研究活動の可視化について震災対応プロジェクトの成果が上手く出せば、インパクトを与える可能性がある。全日仏や仏教NGO等と連携することによってこの学会の存在意義も対社会的にクローズアップされる可能性がある。その上で震災対応について強化していく必要もある。

・山口監事

会員数について自分の入会した時より100名減少している。申し上げにくい事ながら理事・役員の構成を見ると高齢化が進んでいるように思われる。若手を理事に入れて、今後に繋げるということも大事ではないか。

・長谷川議長

会の存続発展を考えると若手の方々をこれから進める事業に関係してもらい、前面に立つてもらいたい。

・小島理事

学術大会開催のポスターを団体会員の学校には3枚づつ位を送って掲示してもらったらど

うか。

・長谷川議長

ポスターの掲示については各大学にお任せする事となっていた。今後、団体会員校についても学会の事業について知っていただく努力は続けていきたい。

・石川代表理事

団体理事については他の学会ではあまり見受けられない。本会では仏教系大学の代表が代表理事となって会を運営してきたという経緯がある。また大学の代表が団体理事となっても実際は各大学の本会に関わる方が代理となる。その流れを受けて選挙制へと移行してきた。その流れの中で団体会員は学会の後援という位置づけになった。もう一度団体会員の役割について考え直す必要があるのではないか。

・長谷川議長

団体会員については、後援団体的要素が強まっている。しかし今後会員数を増やしていくことを考えていくと、後援的機能だけではなく、この学会に入ることにより情報、特に実践現場に関わる情報を提供できれば変わっていきけると思う。仏教系の福祉団体は多数あるので、これらと連携して行ければ可能性があるのではないか。

・小笠原理事

新しく編集委員長になりますが、年報についてシンポジウムの内容等の掲載だけではなくもう少し学術誌として体裁が整えられればと考えております。

・長谷川議長

学会年報の充実を図っていくことは重要。理事会でも編集方針について協議されてきましたが、是非編集委員長として充実を図るためのご提案を頂きたい。例えば50周年と関連して、学会成立は昭和41年だが、戦後ととらえても良いと思う。仏教社会福祉の研究史的な整理が必ずしもきちんと行われてはいないように思える。学会成立前の様々な研究、または学会設立後では発表を頂いた会員本人に書いていただくことはできないかなと考えている。文献史的なたぐいのものを掲載していくことなども考えられる。それらをまとめていくことも考えられる。

・石川代表理事

社会事業史が試験科目から外れて、思想研究・原理研究等が後退しているのと同じように、学会も後退したかなと思う。その部分を伝えようとテキスト編纂も行ったが、難しくなってしまう、簡単にすると伝えきれないと

いう問題がある。転換期であるとするならば、そうした議論を理事会でして行くのなら、是非50周年の担当の先生方が集まって、このことについて語るぞと取り組んでもらうか、また年報上で座談会の様な企画等があれば、読者が面白い紙面となり、会員以外の方にも興味を持ってもらえるのではないかと。

・長谷川議長

仏教社会福祉入門をもとに、大学院生なども含めて議論できる会を作る機会なども考えたい。社会事業史学会では若手の研究者の発表の場を作っている。社会事業史学会とは違った意味で、話題提供のような感じで、若手のみならず、会員も参加して、活性化した議論を行い、持ち帰ってもらう。テーマはあまり難しくせず提供し、若手3人くらいでフランクに議論が行われるものと考えていきたい。

時間があまりありませんが、この前話題になったことを繰り返すことになりませんが、担当に関しましては、現在担当されている理事の先生方に継続して行っていただく事、新たに理事に加わった先生方、小笠原先生には年報編集・査読の委員長をおつとめいただき、庶務理事には藤森理事もしくは渋谷理事に担当していただく。

本日の臨時理事会で色々なご意見を頂いた。一つは若手の方の積極的な登用で、委員会等で積極的に活動してもらいたい。また団体会員校に学会の活動を知っていただくように活動していく。例えば大会のポスターを送る事など考えていきたい。さらに私の考えている研究活動の可視化の一環として、震災対応プロジェクトをより生かしていく必要がある。学会がどのように活動し、その成果をどういう風に生かしていくか、更に事業を継続していきたい。また研究活動の活性化の一環として社会福祉入門の活用について検討していきたい。その他50周年の事業項目については今後、理事の皆様にも事業の中核に関わっていただき、活躍していただくことをご了解いただきたい。本日は急ぎで分担体制等を確認させていただいた。今後事務局と詰めさせていただき、また現代表理事の石川先生とも協議させていただきたい。それでは本日の理事会はこれで閉会させていただきたい。

(文責 事務局)

## 第5回学会賞 募集要項

### 1 学会賞創設の意義と目的

創立40周年を契機に、仏教社会福祉研究の一層の発展を図るため、学会員のうちで顕著

な研究業績をあげた者の顕彰、および若手研究者の研究奨励を目的とする日本仏教社会福祉学会学会賞を創設する。

## 2 学会賞の種類

創設の目的にてらし、学会賞は次の2種とする。

### I 学術賞

学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰

### II 奨励賞

学会員のうちで今後の研究の発展が期待される者の奨励

## 3 審査の対象

- 平成24年1月1日から平成26年12月31日までに発表された研究業績を対象とする。
- 学術賞については原則として刊行された著作物(単著・共著・編著等)を対象とする。
- 奨励賞については著作物のみでなく、論文(共同執筆を含む)および共同研究成果物(報告書等)も対象とするが、共同執筆の場合は主著者であることを条件とする。
- 対象となる論文は、共著の一部、学会誌、各大学の紀要、海外の専門誌などに掲載されたものとし、外国語のものを含むものとする。

※賞金額について：学術賞10万円、奨励賞5万円とする。

## 平成26年度

### アジア仏教社会福祉学術交流基金 研究・公開助成 募集要項

#### 主旨

日本仏教社会福祉学会第39回大会「アジア仏教社会福祉学術交流大会」の開催に当たり、多額の寄付金をいただき大きな成果を上げることができた。その時の寄付金の残金を、アジア仏教社会福祉学術交流基金(1,087,090円・現在487,090円)として研究助成をする。

#### 概要

##### 1. 助成対象

アジア地域(国外)における現地調査研究を対象とし、実施時期は、平成26年度中(平成26年4月1日～平成27年3月31日)とする。

##### 2. 申請者の資格

申請時において40歳未満の本学会の会員とし、非会員は申請と同時に入会申込をすること。個人、団体を問わない。国籍を問わない。

##### 3. 助成金額

1件あたり、30万円を限度とする。使途については特に限定しない。

##### 4. 成果報告義務

被助成者は、当該研究の成果を平成27年度の大会において口頭発表し、併せて『日本仏教社会福祉学会年報』に寄稿する義務を負う。

##### 5. 免責

調査はすべて被助成者の責任で行い、対象の現地調査において調査者がいかなる病気や危害などを被っても、本学会は責務を負わない。

#### 選考方法

##### 1. 方法

申請書類受付終了後、研究担当理事の指名によって選考委員会を開催する。選考委員会で書類審査を行い、平成26年度第1回理事・役員会において決定する。

##### 2. 選考基準

研究の目的・活動が具体的で明確であるもの。調査研究に助成が有効であると認められるもの。

##### 3. 採否通知

採否の結果は、書面にて本人に通知する(平成26年5月上旬の予定)。

#### 申請方法

##### 1. 書類請求

申請希望者は、下記宛に葉書又はメールにて申請書類を請求すること。

##### 2. 申請方法

所定の申請書類一式を事務局宛に郵送すること。

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨3-20-1

大正大学社会福祉学科事務室内

日本仏教社会福祉学会事務局

E-mail: ohdai-sw@tais-shafuku.sakura.ne.jp

##### 3. 申請期限

平成26年3月31日(必着)

#### (付記)

平成18年9月8日理事会決定により発効。なお、基金を消費し終えた時点で失効する。

## 日本仏教社会福祉学会 第49回大会について



平成26年度日本仏教社会福祉学会第49回大会は10月11日、12日に同朋大学で開催予定です。

詳細については、大会開催校である同朋大学より、会員各位に案内が届きます。

### 理事選出選挙の結果及び次期理事・役員体制報告

平成25年8月31日総会で承認されました理事選出選挙の結果及び次期理事・役員体制は、下記のようになります。

記

#### 新理事・役員体制

・代表理事

長谷川 匡俊(選挙上位)

・個人理事

石川 到覚 (選挙上位)

清水 海隆 (選挙上位)

田宮 仁 (選挙上位)

宮城 洋一郎 (選挙上位)

藤森 雄介 (選挙上位)

池上 要靖 (選挙上位)

小笠原 慶彰 (選挙上位)

田代 俊孝 (選挙上位)

谷山 洋三 (選挙上位)

村井 龍治 (継続推薦)

・団体理事

淑徳 大学 渋谷 哲 (選挙上位)

大正 大学 落合 崇志 (選挙上位)

立正 大学 三友 量順 (選挙上位)

大谷 大学 徳岡 博巳 (推薦)

佛教 大学 林 俊光 (推薦)

同朋 大学 小島 恵昭 (推薦)

龍谷 大学 長上 深雪 (推薦)

・監事

梅原 基雄

山口 幸照

注) 監事は、個人・団体会員の東西地域による。

### 会員の皆様へお知らせ

#### 1. 住所変更に関してのお願い

ご所属・ご住所などの変更があった方は、事務局までご連絡下さい。事務局からの発送物がメール便のため、住所の変更がありますと届かない場合もあります。

お手数ですが住所変更などの手続きは遺漏なくお願いいたします。

#### 2. 学会費納入のお願い

平成25年度分の学会費及び過年度の学会費が未納の会員の方におきましては、納入の振込用紙を同封させていただいております。会則第8条において「会費を3年以上にわたって滞納した者は、理事会において退会したものとみなすことがある。」と規定されておりますのでご留意下さい。詳しくは、同封の「会費納入のお願い」をご覧ください。ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

#### 3. 年報の送付について

まもなく学会年報44号をで送付させていただく予定です。昨年度の年報がお手元に届いていない方がおられましたら、事務局までご連絡ください。

### 事務局 編集後記

来年度より以下に事務局が変わります。

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1

049-274-1511 (代表) /ファックス049-274-1521

淑徳大学 埼玉キャンパス内

社会福祉実習指導室 担当：藤田

至らない点多々あったかと存じますが、3年間ありがとうございました。これからも私どもの学会をどうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

#### 訃報

水谷幸正名誉会員は、平成26年2月8日ご遷化されました。享年87歳。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

日本仏教社会福祉学会